

中小企業景況調査報告書

2023年 1月～3月期 実績

(2023年 4月～6月期 予測)

調査実施時点 : 2023年3月1日

京都府商工会連合会

《 目 次 》

1. 中小企業景況調査の概要	2 頁
2. 京都府内商工会地域産業の景況【総括】	3 ~ 4 頁
3. 各業種の景況	
(1) 製造業の景況	5 ~ 6 頁
(2) 建設業の景況	7 ~ 8 頁
(3) 小売業の景況	9 ~ 10 頁
(4) サービス業の景況	11 ~ 12 頁
4. 自社の業況判断について感じている事 (調査対象企業の声)	13 ~ 16 頁

D・I とは (景気動向指数)

この報告書の中で用いている「**D・I 指数**」とは、ディフュージョン・インデックスの略で、企業経営者の景気の波及度合いを表す指標として、利用されています。

《算出方法》

前年同期に比べて、

$$\frac{\text{『増加』回答企業の割合}}{\text{(上昇・好転等)}} - \frac{\text{『減少』回答企業の割合}}{\text{(低下・悪化等)}} = \text{D・I}$$

D・I が、**プラス (+)** 値 …… 強気 (楽観) を表す。

D・I が、**マイナス (-)** 値 …… 弱気 (悲観) を表す。

例えば、売上が前年同期比で、

『増加』回答企業 50%、『不変』回答企業 30%、『減少』回答企業 20% の場合、

$$\text{D・I 指数は、} \quad 50\% - 20\% = 30\%$$

となり、経営者の売上に対する業況観が、強気気運であることを表しています。

1. 中小企業景況調査の概要

この調査は、商工会地域の産業の状況、地域の経済動向等について、四半期毎に変化の実態等諸状況を迅速かつ的確に収集把握して、経営改善普及事業の効果的な指導資料にするために、全国商工会連合会が実施する調査に連携し、府内の状況を取りまとめたものです。

調査要領、本年度の調査対象商工会及び、調査回答企業数・対象業種別構成の内訳は次のとおりです。

(1) 調査対象期間

2023年1月～3月期を対象とした。

調査実施時点 …… 3月1日(水)

調査期間 …… 2月16日(木) ～ 3月1日(水)

(2) 調査の方法

(イ) 商工会の経営支援員の訪問による面接調査とした。

(ロ) 調査対象商工会の選定は、管内ごとの市町村人口を勘案し、又、調査対象企業の抽出は、各業種・規模等の有意抽出法とした。

(3) 調査対象商工会

京丹後市商工会、与謝野町商工会、京丹波町商工会、南丹市商工会、向日市商工会、大山崎町商工会、井手町商工会、宇治田原町商工会、八幡市商工会、木津川市商工会、和束町商工会、長岡京市商工会、京田辺市商工会、久御山町商工会、笠置町商工会、精華町商工会、南山城村商工会、京北商工会、福知山市商工会、伊根町商工会

(計20商工会)

(4) 対象業種別構成 及び 回答企業数

業種	調査対象企業数	構成比	回答企業数	回答率
製造業	36	20.0%	36	100.0%
建設業	24	13.3%	24	100.0%
小売業	52	28.9%	51	98.1%
サービス業	68	37.8%	67	98.5%
【合計】	180	100%	178	98.9%

2. 京都府内商工会地域産業の景況【総括】

《概要》

物価上昇の中で先行き不透明な景況

新型コロナウイルスの感染症対策と経済活動の両立が進む一方で物価上昇などの不確実性が残る中、今期の売上DIは全産業平均で対前期比4.5ポイントの改善(前期▲15.9ポイント→今期▲11.4ポイント)となった。

内訳は、製造業が13.4ポイントの悪化(前期▲17.1ポイント→今期▲30.5ポイント)、建設業が22.0ポイントの改善(前期▲26.1ポイント→今期▲4.1ポイント)、小売業が14.4ポイントの悪化(前期▲4.0ポイント→今期▲18.4ポイント)、サービス業が23.8ポイントの改善(前期▲16.4ポイント→今期7.4ポイント)となった。

採算DIは、全産業平均で対前期比14.9ポイントの悪化(前期▲28.6ポイント→今期▲43.5ポイント)となり、内訳は、製造業が30.1ポイントの悪化(前期▲14.3ポイント→今期▲44.4ポイント)、建設業が20.1ポイントの悪化(前期▲17.4ポイント→今期▲37.5ポイント)、小売業が13.0ポイントの悪化(前期▲38.0ポイント→今期▲51.0ポイント)、サービス業が3.9ポイントの改善(前期▲44.8ポイント→今期▲40.9ポイント)となった。





























来期の見通しとしては、売上DIが全産業平均で6.6ポイントの改善(今期▲11.4ポイント→来期見通し▲4.8ポイント)、採算DIでは全産業平均で15.2ポイントの改善(今期▲43.5ポイント→来期見通し▲28.3ポイント)となっている。

業種別景況指標(景気の天気図)では、製造業がやや悪化、建設業がやや好転、小売業がやや悪化、サービス業がやや好転となった。







採算の来期見通しは、製造業が24.9ポイントの改善(今期▲44.4ポイント→来期見通し▲19.5ポイント)、建設業は変化なし(今期▲37.5ポイント→来期見通し▲37.5ポイント)、小売業が19.0ポイントの改善(今期▲51.0ポイント→来期見通し▲32.0ポイント)、サービス業が16.7ポイントの改善(今期▲40.9ポイント→来期見通し▲24.2ポイント)となっている。

業種別景況指標 (景気の天気図)

※天気図は売上DI

	R3年		R4年				R5
	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～6月(見通)
製造業							
建設業							
小売業							
サービス業							

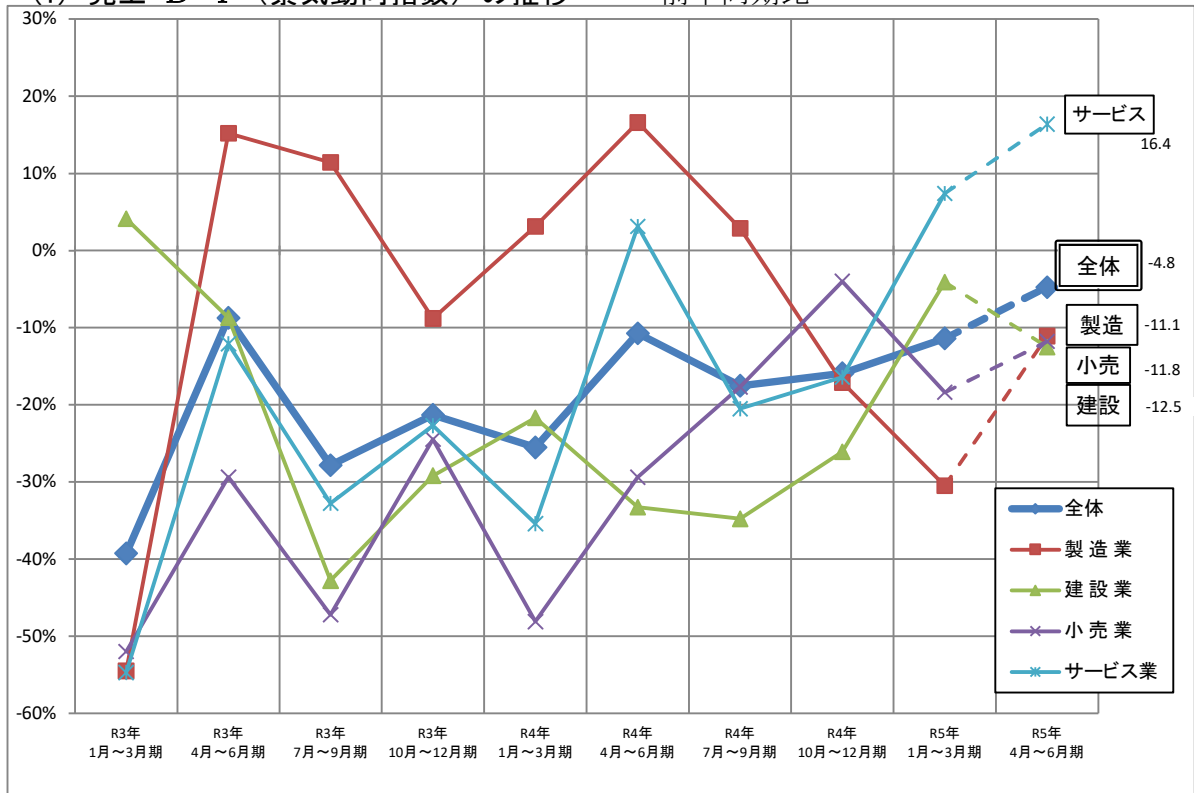
天気図のよみ方

D・I	100.0 ～50.1	50.0 ～25.1	25.0 ～0.1	0.0 ～▲25.0	▲25.1 ～▲50.0	▲50.1 ～▲100.0
指標						
内容	特に好転	好転	やや好転	やや悪化	悪化	特に悪化

2. 京都府内商工会地域産業の景況【総括】

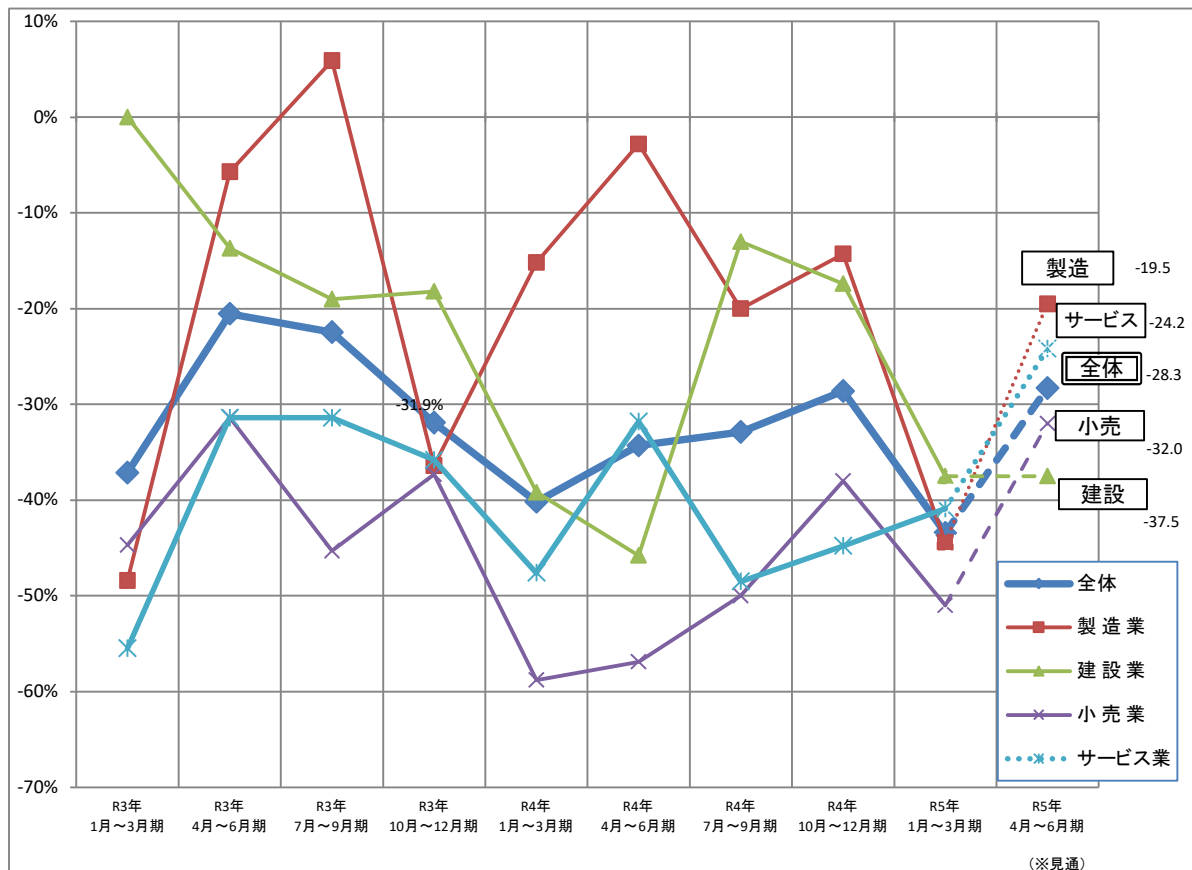
《売上と採算の推移》

(1) 売上 D・I (景気動向指数) の推移 —前年同期比—



(※見通)

(2) 採算 D・I (景気動向指数) の推移 —前年同期比—



(※見通)

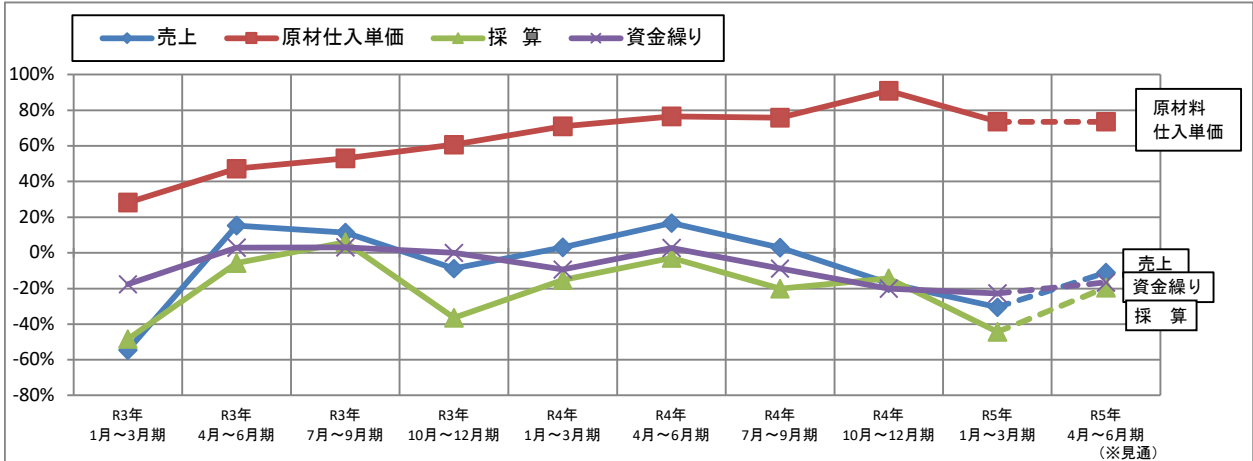
3. 各業種の景況

(1) 製造業

① 製造業 D・I 値 (景気動向指数)の推移 —前年同期比—

製造業	R4年				R5年	R5年
	1月～3月期	4月～6月期	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期	4月～6月期
売上	3.1%	16.6%	2.9%	▲ 17.1%	▲ 30.5%	▲ 11.1%
原材仕入単価	71.0%	76.5%	75.8%	90.9%	73.5%	73.5%
採算	▲ 15.2%	▲ 2.8%	▲ 20.0%	▲ 14.3%	▲ 44.4%	▲ 19.5%
資金繰り	▲ 9.4%	2.7%	▲ 8.8%	▲ 20.0%	▲ 22.8%	▲ 16.6%

来期予測



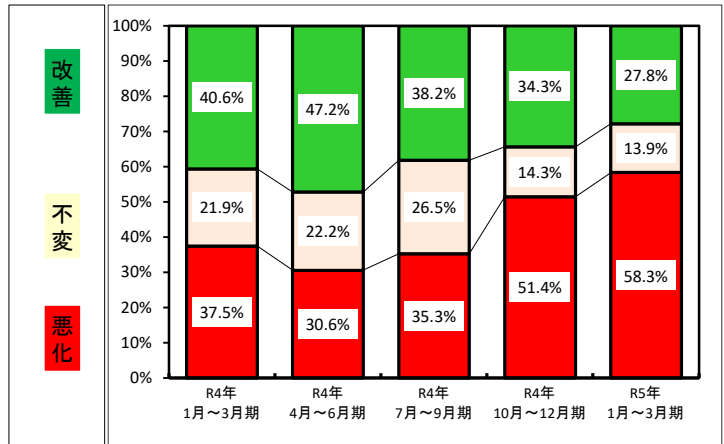
売上 …… ▲ 30.5 ポイント
(前期比 13.4 ポイント悪化)

仕入単価 …… 73.5 ポイント
(前期比 17.4 ポイント悪化)

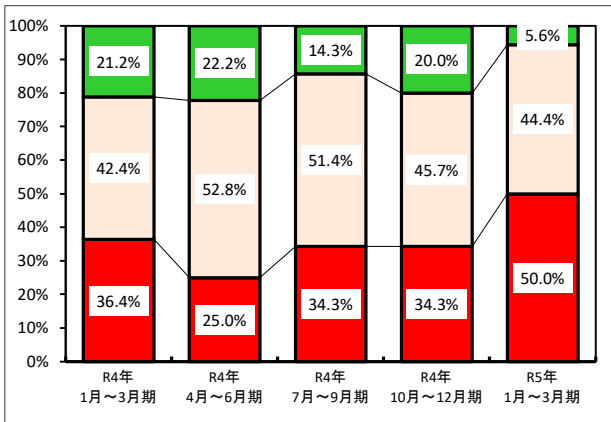
採算 …… ▲ 44.4 ポイント
(前期比 30.1 ポイント悪化)

資金繰り …… ▲ 22.8 ポイント
(前期比 2.8 ポイント悪化)

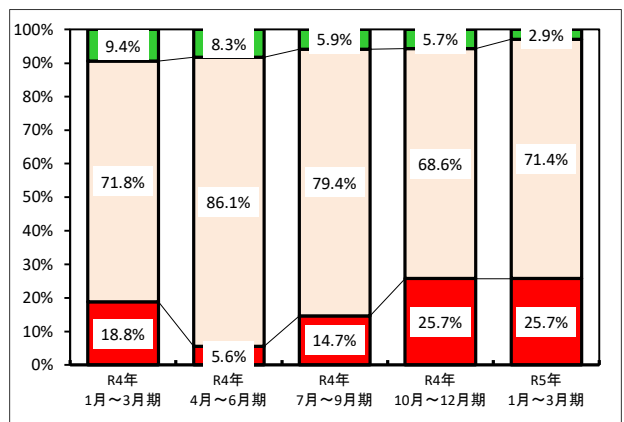
※『売上(加工)』の状況 前年同期比 (D・I 値)



※『採算』の状況 前年同期比 (D・I 値)



※『資金繰り』の状況 前年同期比 (D・I 値)



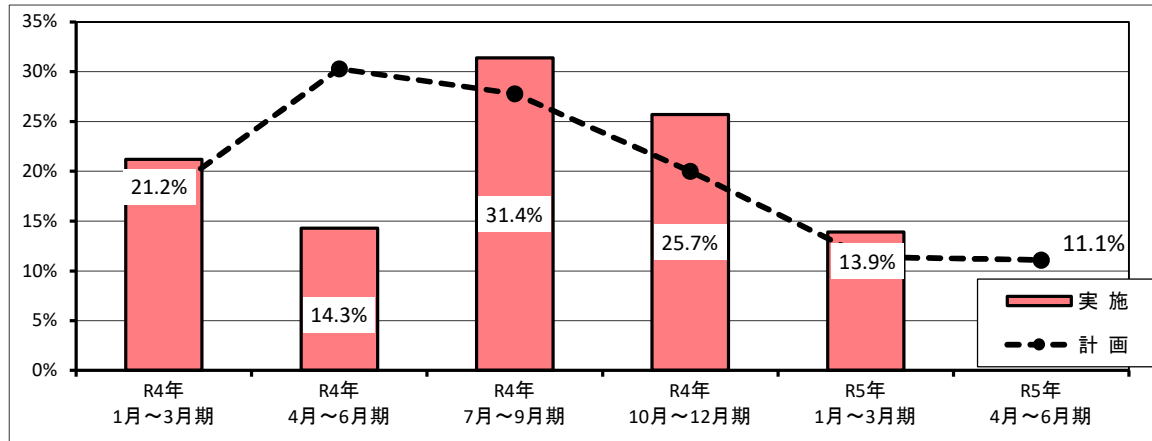
3. 各業種の景況

(1) 製造業

② 設備投資の状況（当期中に行った設備投資の実施状況と来期の実施予定を集計）

今期の設備投資の実施状況は、13.9%（前期比11.8ポイント悪化）であった。

製造業	R4年				R5年	(計画) R5年	
	1月～3月期	4月～6月期	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期	1月～3月期	4月～6月期
土地	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
車両・運搬具	28.6%	20.0%	18.2%	22.2%	20.0%	25.0%	25.0%
生産設備	57.1%	40.0%	54.5%	33.3%	40.0%	100.0%	100.0%
設備投資の実施	21.2%	14.3%	31.4%	25.7%	13.9%	11.1%	11.1%

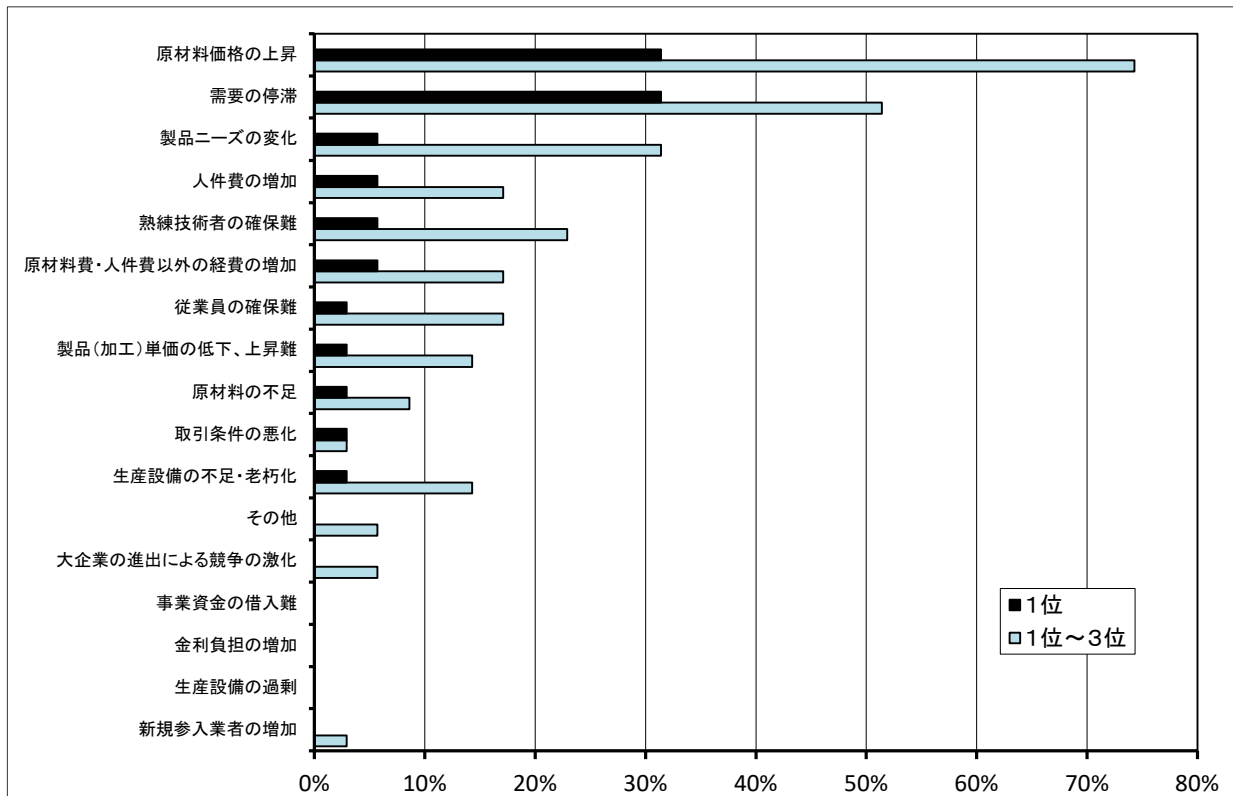


※ 計画については、調査実施時期を基準に翌期の予定を記入しているため、グラフに期の差が生じる。

③ 経営上の問題点

※ グラフ中の項目から1位～3位まで挙げられた問題点を1位及び1位～3位毎に集計を行った。

「原材料価格の上昇」「需要の停滞」「製品ニーズの変化」が上位となった。

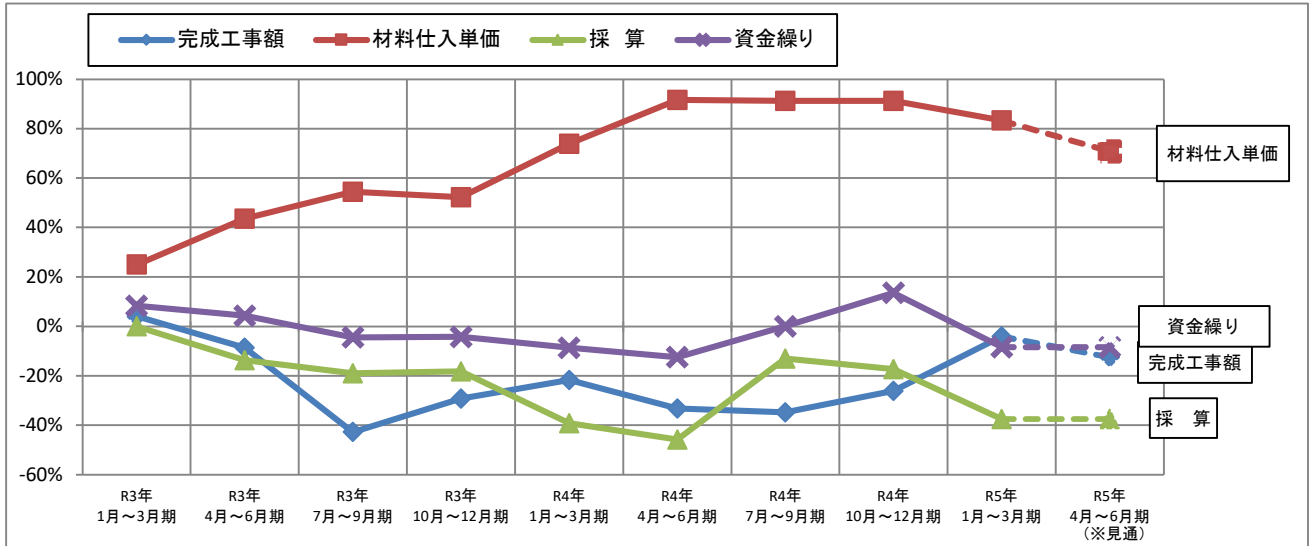


3. 各業種の景況

(2) 建設業

① 建設業 D・I 値 (景気動向指数)の推移 —前年同期比—

建設業	R4年				R5年	来期予測	
	1月～3月期	4月～6月期	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期	R5年	
完成工事額	▲ 21.7%	▲ 33.3%	▲ 34.8%	▲ 26.1%	▲ 4.1%	4月～6月期	
材料仕入単価	73.9%	91.7%	91.3%	91.3%	83.3%	▲ 12.5%	
採算	▲ 39.2%	▲ 45.8%	▲ 13.0%	▲ 17.4%	▲ 37.5%	▲ 70.8%	
資金繰り	▲ 8.7%	▲ 12.5%	0.0%	13.6%	▲ 8.4%	▲ 37.5%	
						▲ 8.4%	



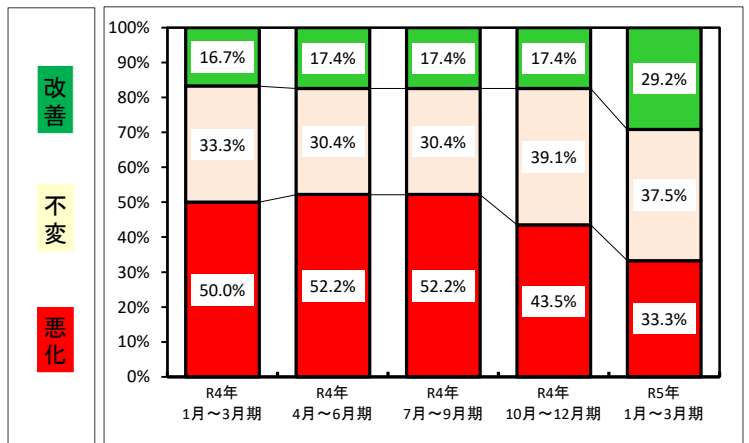
完成工事額 .. ▲ 4.1 ポイント
(前期比 22.0 ポイント改善)

仕入単価 83.3 ポイント
(前期比 8.0 ポイント悪化)

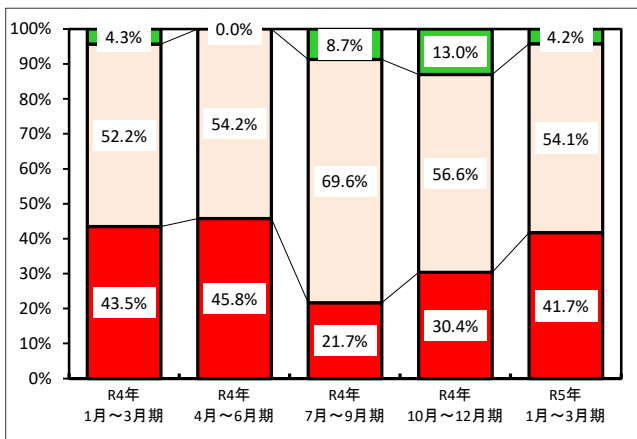
採算 ▲ 37.5 ポイント
(前期比 20.1 ポイント悪化)

資金繰り ▲ 8.4 ポイント
(前期比 22.0 ポイント悪化)

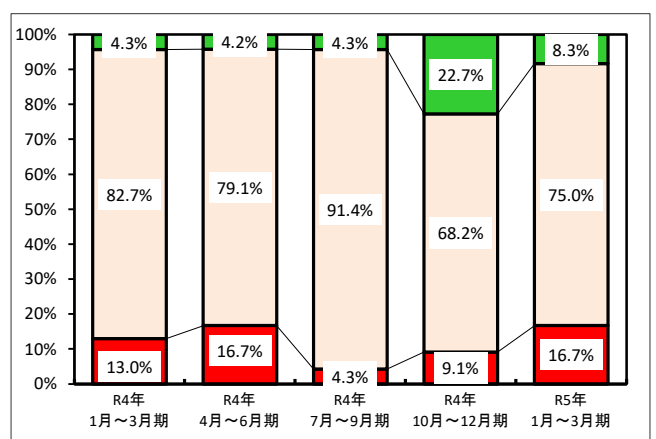
※『完成工事額』の状況 前年同期比 (D・I 値)



※『採算』の状況 前年同期比 (D・I 値)



※『資金繰り』の状況 前年同期比 (D・I 値)



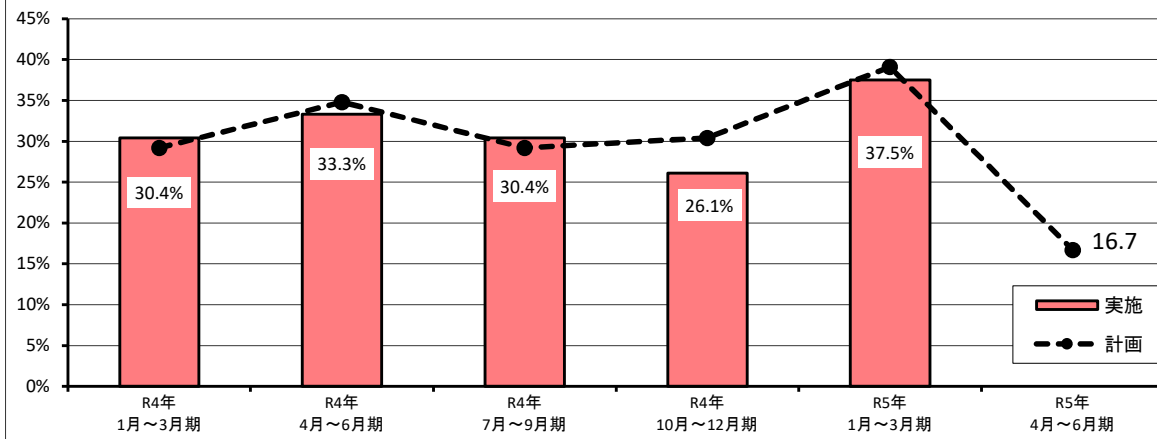
3. 各業種の景況

(2) 建設業

② 設備投資の状況（当期中に行った設備投資の実施状況と来期の実施予定を集計）

設備投資の実施状況は37.5%（前期比11.4ポイント改善）であった。

建設業	R4年				R5年	(計画)	
	1月～3月期	4月～6月期	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期	R5年	R5年
土地	0.0%	12.5%	14.3%	0.0%	0.0%	4月～6月期	25.0%
車両・運搬具	42.9%	25.0%	28.6%	50.0%	11.1%	4月～6月期	25.0%
建設機械	28.6%	25.0%	14.3%	16.7%	33.3%	4月～6月期	25.0%
設備投資の実施	30.4%	33.3%	30.4%	26.1%	37.5%	4月～6月期	16.7%

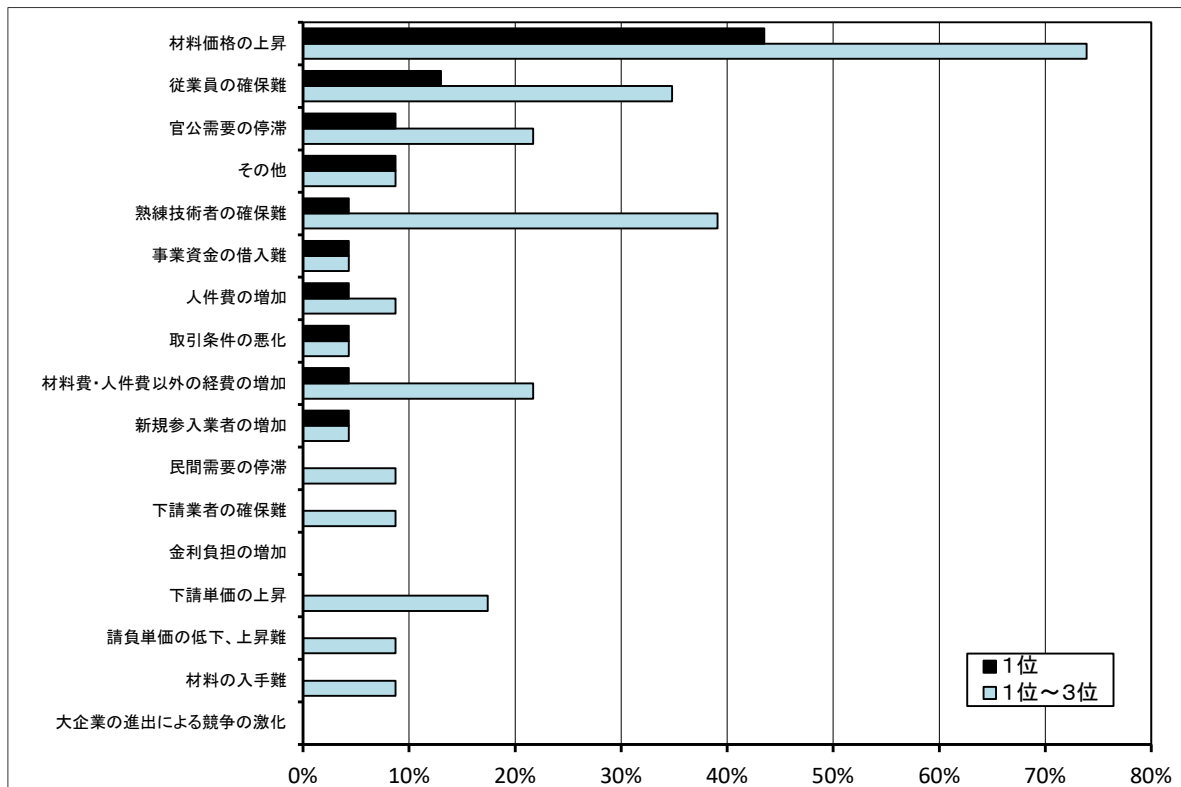


※ 計画については、調査実施時期を基準に翌期の予定を記入しているため、グラフに期の差が生じる。

③ 経営上の問題点

※ グラフ中の項目から1位～3位まで挙げられた問題点を1位及び1位～3位毎に集計を行った。

「材料価格の上昇」「従業員の確保難」「官公需の停滞」が上位を占めた。

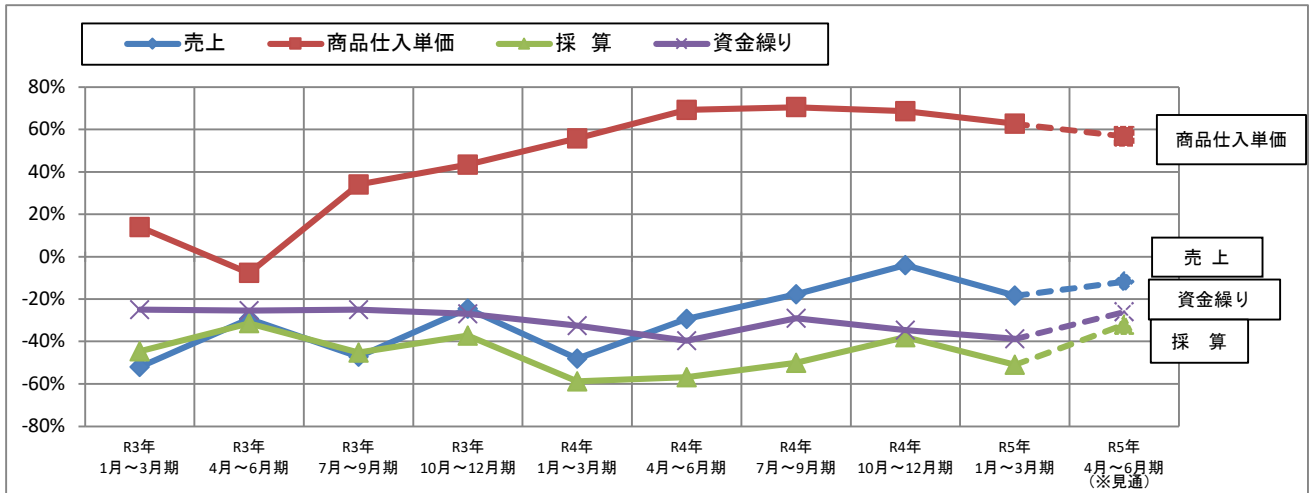


3. 各業種の景況

(3) 小売業

① 小売業 D・I 値 (景気動向指数)の推移 —前年同期比—

小売業	R4年				R5年	来期予測	
	1月～3月期	4月～6月期	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期	R5年	R5年
売上	▲ 48.1%	▲ 29.4%	▲ 17.7%	▲ 4.0%	▲ 18.4%	▲ 11.8%	▲ 11.8%
商品仕入単価	55.8%	69.2%	70.6%	68.6%	62.7%	56.8%	56.8%
採算	▲ 58.8%	▲ 56.9%	▲ 50.0%	▲ 38.0%	▲ 51.0%	▲ 32.0%	▲ 32.0%
資金繰り	▲ 32.6%	▲ 39.6%	▲ 29.1%	▲ 34.7%	▲ 38.8%	▲ 26.0%	▲ 26.0%



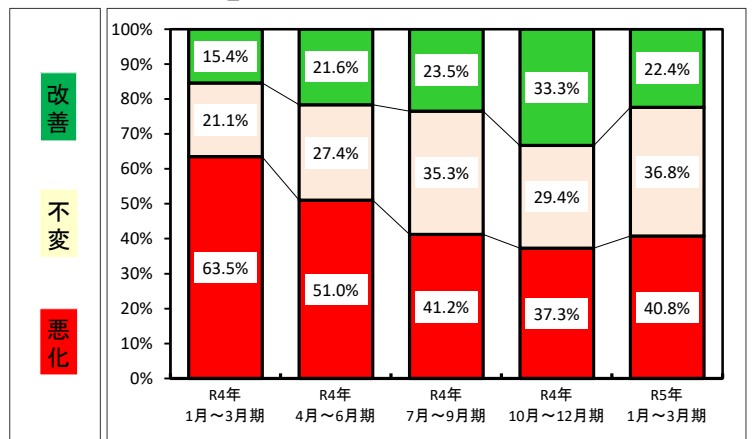
※『売上』の状況 前年同期比 (D・I 値)

売上 …… ▲ 18.4 ポイント
(前期比 14.4 ポイント悪化)

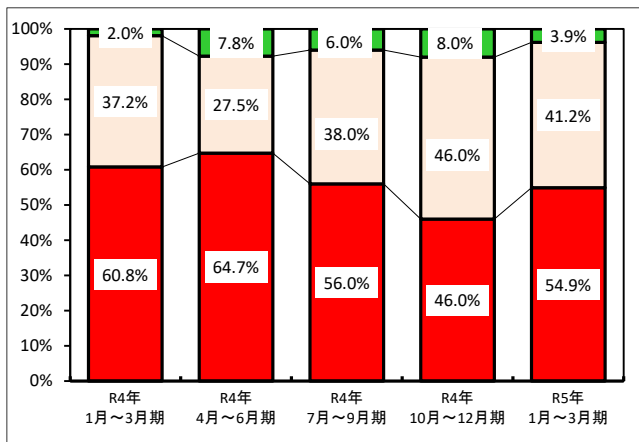
仕入単価 …… 62.7 ポイント
(前期比 5.9 ポイント悪化)

採算 …… ▲ 51.0 ポイント
(前期比 13.0 ポイント悪化)

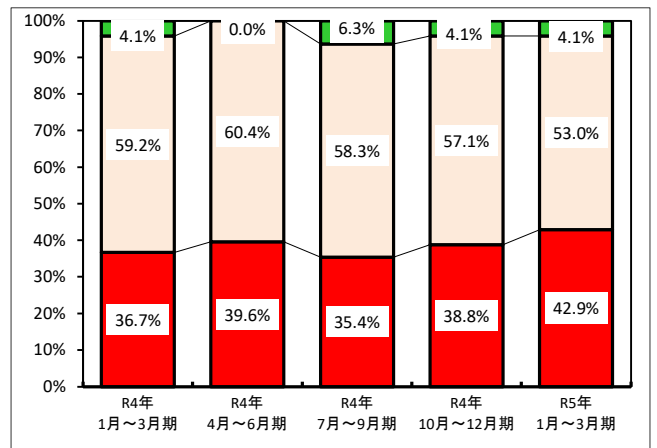
資金繰り …… ▲ 38.8 ポイント
(前期比 4.1 ポイント悪化)



※『採算』の状況 前年同期比 (D・I 値)



※『資金繰り』の状況 前年同期比 (D・I 値)



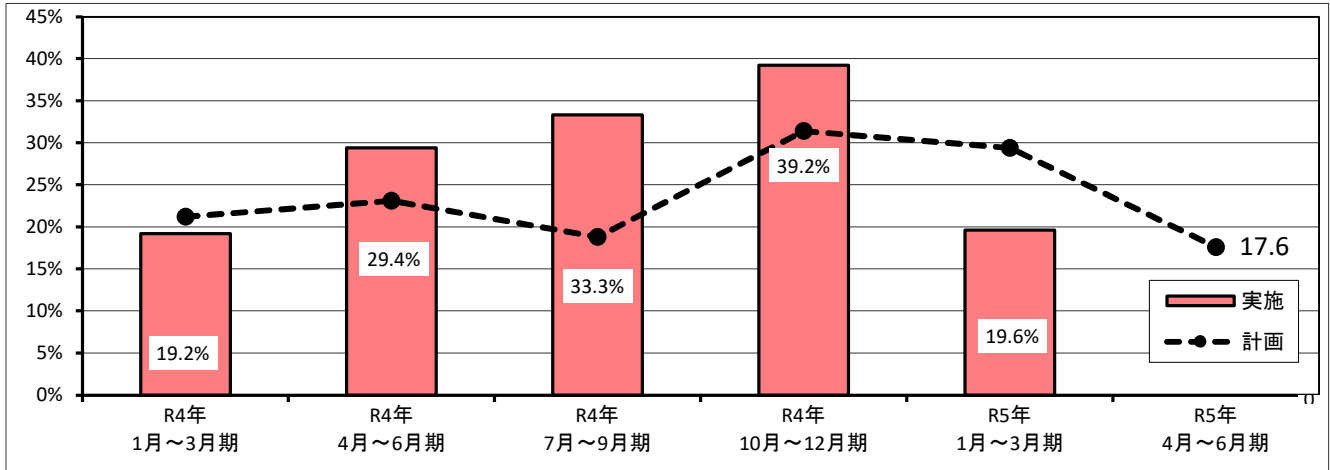
3. 各業種の景況

(3) 小売業

② 設備投資の状況(当期中に行った設備投資の実施状況と来期の実施予定を集計)

設備投資を実施した企業数の割合は19.6% (前期比19.6ポイントの悪化) であった。

小売業	R4年				R5年	(計画) R5年
	1月～3月期	4月～6月期	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期	4月～6月期
土地	0.0%	6.7%	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%
車両・運搬具	0.0%	33.3%	17.6%	20.0%	10.0%	22.2%
販売設備	50.0%	53.3%	29.4%	55.0%	40.0%	33.3%
設備投資の実施	19.2%	29.4%	33.3%	39.2%	19.6%	17.6%

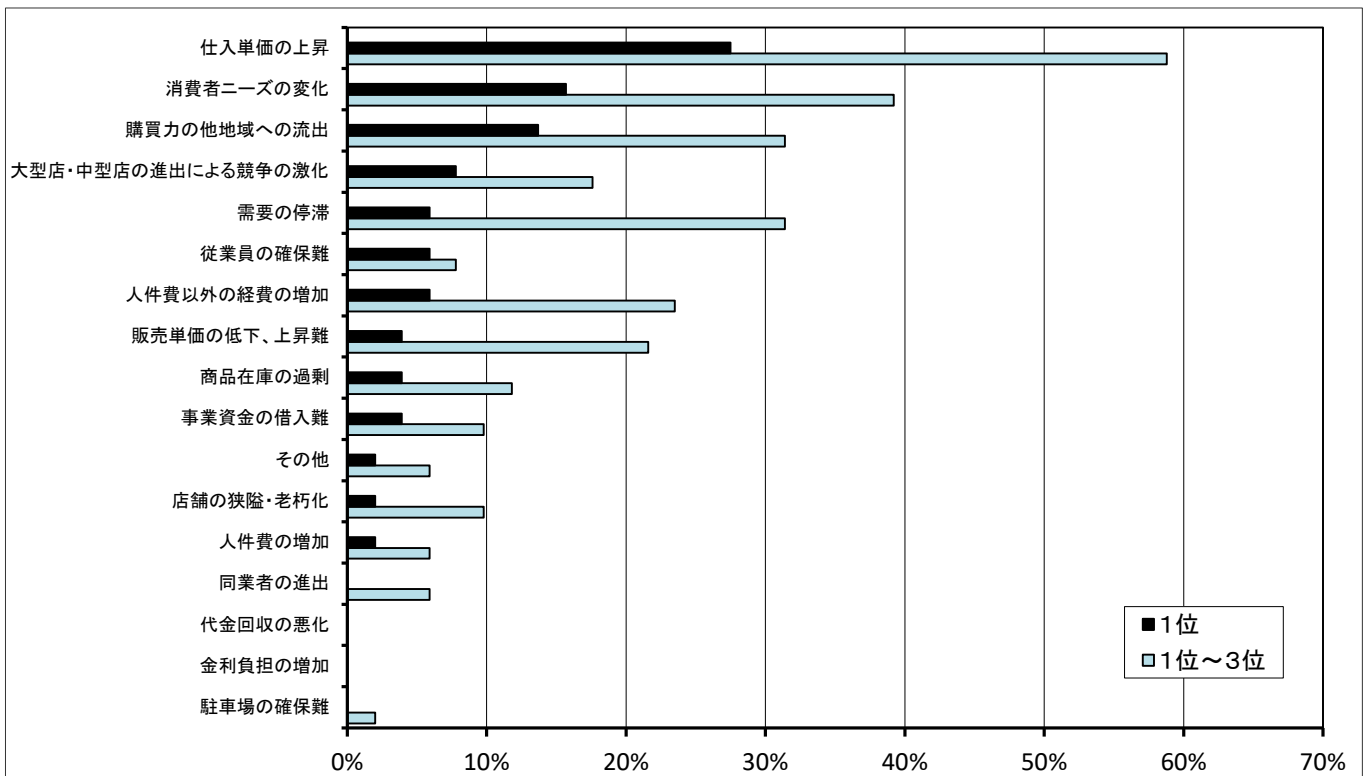


※ 計画については、調査実施時期を基準に翌期の予定を記入しているため、グラフに期の差が生じる。

③ 経営上の問題点

※グラフ中の項目から1位～3位まで挙げられた問題点を1位及び1位～3位毎に集計を行った。

「仕入単価の上昇」「消費者ニーズの変化」「購買力の他地域への流出」が上位となった。

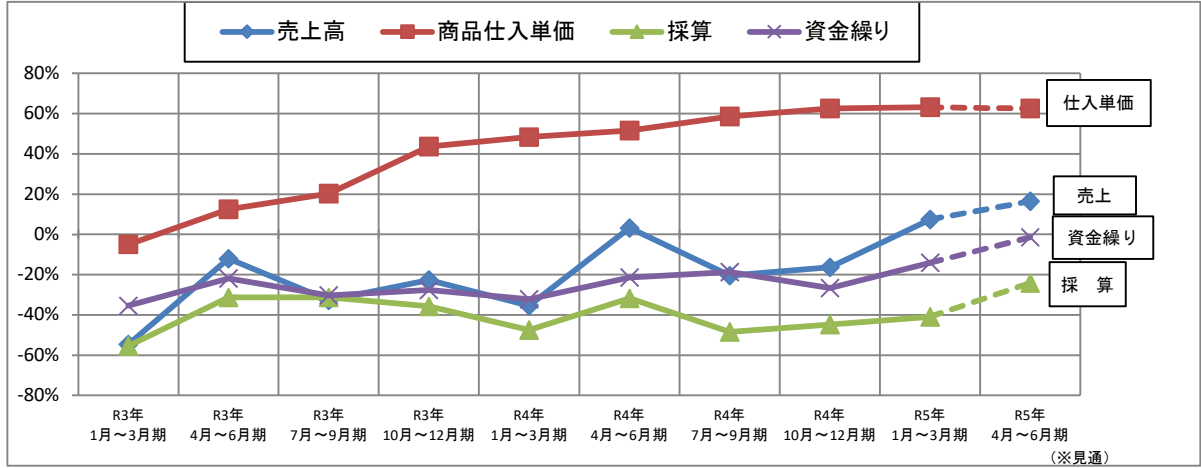


3. 各業種の景況

(4) サービス業

① サービス業 D・I 値 (景気動向指数)の推移 ー前年同期比ー

サービス業	R4年				R5年	来期予測
	1月～3月期	4月～6月期	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期	R5年 4月～6月期
売上	▲ 35.4 %	3.1 %	▲ 20.5 %	▲ 16.4 %	7.4 %	16.4 %
仕入単価	48.3 %	51.6 %	58.5 %	62.5 %	63.1 %	62.5 %
採算	▲ 47.6 %	▲ 31.8 %	▲ 48.5 %	▲ 44.8 %	▲ 40.9 %	▲ 24.2 %
資金繰り	▲ 32.3 %	▲ 21.5 %	▲ 18.7 %	▲ 26.6 %	▲ 14.1 %	▲ 1.5 %



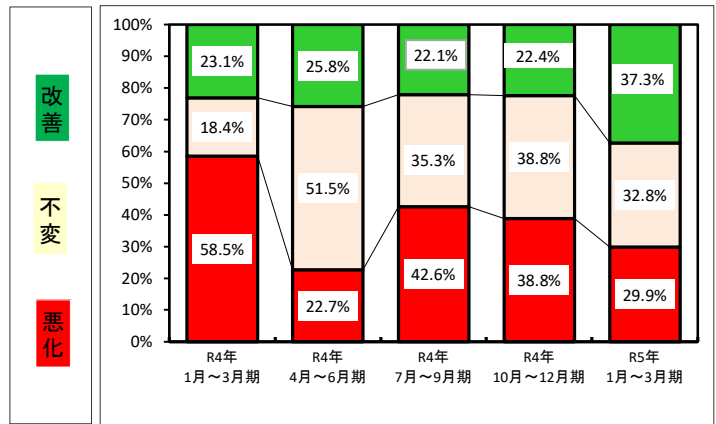
※『売上(収入)』の状況 前年同期比 (D・I 値)

売上・・・ 7.4 ポイント
(前期比 23.8 ポイント改善)

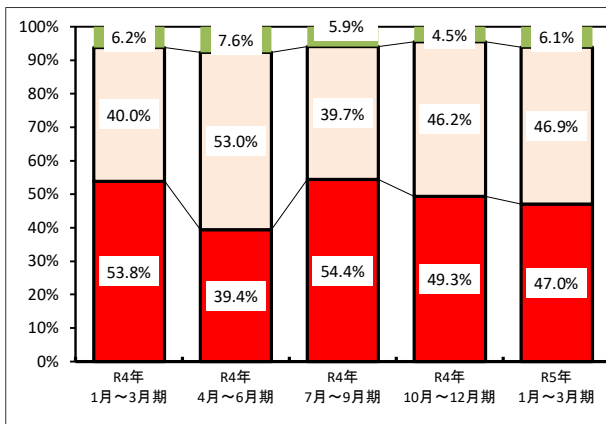
仕入単価・・・ 63.1 ポイント
(前期比 0.6 ポイント改善)

採算・・・ ▲ 40.9 ポイント
(前期比 3.9 ポイント改善)

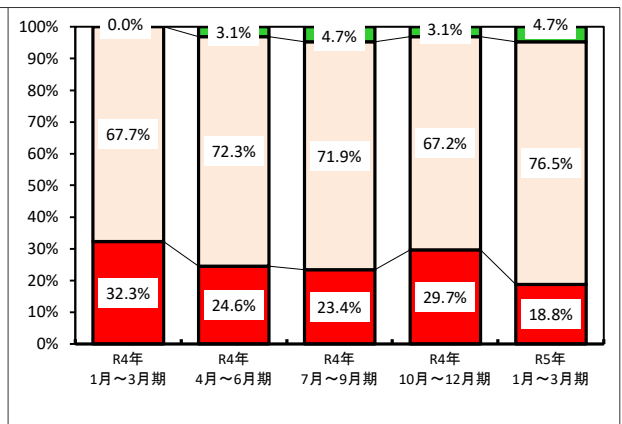
資金繰り・・・ ▲ 14.1 ポイント
(前期比 12.5 ポイント改善)



※『採算』の状況 前年同期比 (D・I 値)



※『資金繰り』の状況 前年同期比 (D・I 値)



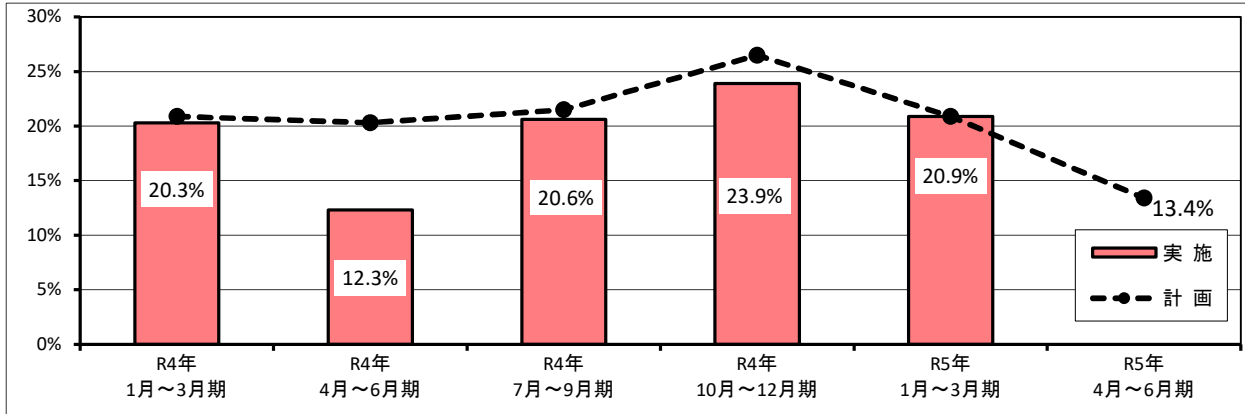
3. 各業種の景況

(4) サービス業

② 設備投資の状況（当期中に行った設備投資の実施状況と来期の実施予定を集計）

設備投資を実施した企業数の割合は20.9%（前期比3.0ポイント悪化）であった。

サービス業	R4年				R5年	(計画)	
	1月～3月期	4月～6月期	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期	R5年	R5年
土地	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	4月～6月期	0.0%
車両・運搬具	7.7%	12.5%	14.3%	12.5%	14.3%		22.2%
サービス設備	38.5%	62.5%	50.0%	37.5%	50.0%		44.4%
設備投資の実施	20.3%	12.3%	20.6%	23.9%	20.9%		13.4%

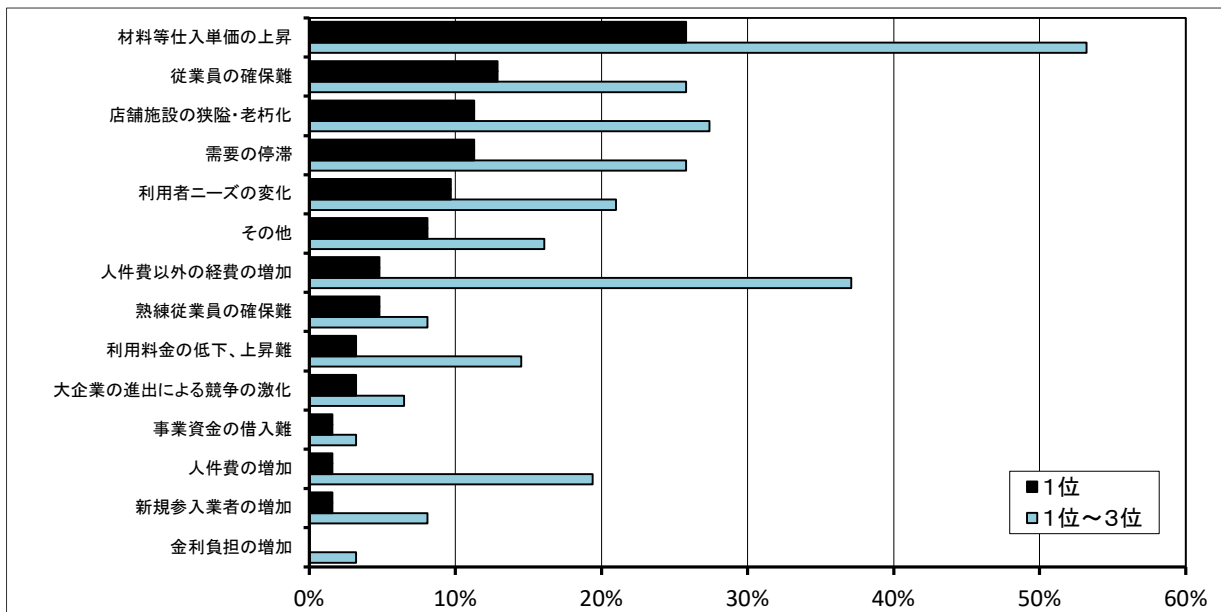


※ 計画については、調査実施時期を基準に翌期の予定を記入しているため、グラフに期の差が生じる。

③ 経営上の問題点

※ グラフ中の項目から1位～3位まで挙げられた問題点を1位及び1位～3位毎に集計を行った。

「材料等仕入単価の上昇」「従業員の確保難」「店舗施設の狭隘・老朽化」が上位となった。



4. 自社の業況判断について感じている事 (調査対象企業の声)

業種	内 容
製造	<ul style="list-style-type: none"> ■ 売上については、昨年度より伸びたが、包材や運賃の大幅な値上げが相次ぎ、経費負担が大きくなっている。 ■ 大企業の全体的な決算は好転して居るとニュースされて居ますが、我々の業界は生活必需品としては、2番的な商品とマイナス思考に成りますが、製品の利用範囲の拡大を、考がえないと、益々悪く成ると想います。 ■ 原材料、燃料、人件費などの上昇により難しい時ですが受注数は増加していて経営状況は好転しています。新しい機械を十分使いこなし、更に増産増益を目指したいと思います。 ■ ダンボール資材高騰、値上げ競争にどこまで対応できるかが課題。 (業界的には4月以降一旦収束するのではとの見通しも) 観光業の回復の兆しはあるものの、以前のような土産品需要まで戻っておらず依然厳しい状況。 ■ ハローワークや高校に従業員募集してもだれ1人として面接がない。 将来的に会社の存続が出来ない。 ■ 原材料の価格が上昇している。中国からの仕入ができない事情もあり、受注量が増加している。一時的ではなく安定的に請けられるようにする必要がある。 ■ 材料費、電気代などの上昇が止まらない。景気停滞と期末でもあり引合いが止まりつつある。4月以降の明るい見通しがあまりない。 ■ まだまだ先行が不安です。新しい市場開拓をもっとスピードアップして進めないとすぐに古くなってしまう。 ■ 主要取引先からの受注に波がある。コロナ以降一時的に回復も見られたが再び停滞しており非常にきびしい状態。新規を深めているが中々見つからない。 ■ 2月単月の売上げは良いが、1～3月の年度末で合わせると例年よりふるわない。メインの取引先からの受注も今後増える見込みも少ない状況で、社員を1名雇用したので、売上げ、利益を増やすための打開策を検討中。 ■ 大手企業からの発注が突然止まり、先の説明もなく操業を停止せざるをえない。
建設	<ul style="list-style-type: none"> ■ 資材、人件費上昇がとまりません。 ■ 建築業界は今回のコロナ禍でも何とか持ち堪えたと思います。5月以降は2類から5類になるので、これからは日本全体の景気回復を祈ると共に建築業界、他業界の発展をめざして日々努力したいと思います。 ■ 製品、材料の入荷遅れが一部で続いており、工期も遅れ気味であったが、なんとか今期の工事完了の目途がついた。 ■ 受注いただいても従業員不足につき仕事をこなす量も限られる。 結局利益には結びつかない。 ■ 物価上昇の為、ガソリンやその他の経費の上昇、請負単価の上昇が難しいので、収益の上昇にはつながりません。建設業の単価の上昇を願います。 ■ この四月に日銀総裁が変わられるとの事で、456月は、様子を見てから設備投資について考える。 ■ 見積り依頼が増えてきました。新築の依頼も出てきた。 ■ コロナ禍が軽限されるが、景気はこれから悪化すると思う。 電気代の高騰による値上げも今後あらゆる面で影響が出ると思う。何とかしてほしいと思うが、これだけは我々ではどうしようもない現状であると思う。

業種	内 容
建設	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新規案件依頼は増加傾向にあるが、工事金額は低下、材料費高騰等による採算は悪化している。また技術者不足による新規案件の受注難もおこっている。 ■ 今からまだまだ物価上昇が続いていくと思われる。その中で経済が下降していく感があり、この業界もきびしくなっていくであろう、今の政府はなにがしたいのかわからない。
小売	<ul style="list-style-type: none"> ■ 各種経費の単価が重くなっています。田舎なので顧客の高齢化、仕入等ではいままでのおつきあいもありきびしいです。 ■ クーポン券利用により売上効果が大きく2月度は前年比210%と予想。客単価、客数共に前年を大幅に上回るが3月以降はその反動で苦戦すると思う。券利用で新規顧客もあり、更に品揃えの注力しこの流れを維持していきたい。 ■ 新型コロナが少しおちついてきたがまだまだ先行きが不透明でまだまだ不安定な経済だと思われる。 ■ 今後の資金繰が不安です。 ■ お客様が各地域に流出している様に思います。地域密着型ではないのでしょうか。 ■ 仕入単価の上昇もあるものの、需要が伸びつつあるので全体的に見て好転して来ているように思われる。 ■ キャッシュレス還元は初来店客が多くありがたいが定着しない。還元目当てのお客と思われる。当店の存在を知ってもらえる良い機会ではある。 ■ オフシーズンに加え降雪が続く需要減となった。更にコロナにより会社の購売力が下がっており、ネット販売への流出もみられ大変きびしい状況。 ■ お客様の年齢が高くてなくなる方が多いので、売上減少になっています。このまま長生きをしてくれると良いのですが、そうは行きません。何か方法を考えるか？それとも何もせずに過ごすか？個店での対応はしています。 ■ 自転車の大幅値上げで、買い控えがあり、通学用商戦の時期であるが、新車の販売が激減。通販の利用も増えており、厳しい状況。コロナ後の状況の方が悪いため、コロナの時のような経済支援を検討してほしい。 ■ 少しずつ良くなってきているようだが、光熱費等の経費の増加で利益は増えない。 ■ 先の見えない原材料等の高騰によりその上昇分を価格へ全て転嫁する事もできず、いかにロス・ムダを減らすかに注力している状況。お客様も物価高による買い控えもみられる。 ■ コロナ禍の影響で全国的な商品の品薄、加えて円安やウクライナ情勢の影響で原油高が高騰、仕入高が上がっている。 ■ この10年で一番厳しい状況かもです。何か対策を打って他店と違うことをしていかないとダメな状況です。 ■ 近くにドラッグが開店するので、当店への来客が減少するのではないかと心配しています。それと漢方薬等特化しなくてはと思っています。私自身が高齢化したので、どれ位続けられるかが心配をしている。 ■ 仕入単価が上昇したが販売単価への転嫁に時間が掛かるため業況が悪化するのと取引先が減少したため ■ 昨年11月12月は例年通りの売上げに近づいたが、年明け1月はまあまあ2月はかなり悪いように思う。息子がネット販売を考えているが経費がかなりかかるので良い商品を高く売る事は難しいように思う。 ■ 過疎地のため高齢化が進み人口が減少し売上げも低下し店舗も少なくボランティア精神で頑張っています。 ■ 電気ガス水道料金の値上がりもきびしい。 ■ ニーズと物価高騰で苦しんでいる。 ■ 冬の時期は人の動きもきびしいものですが、物価上昇や戦争の背景に気持ちも

業種	内 容
小売	<p>伸び悩み客層も年配の方には余計に元気も出づらく感じます。需要に合う物を手に出来るよう思考しないと地域自体元気も出づらくなると思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 地域経済の低迷・顧客の高齢・人口減少と不安材料の山積みで、どう地域で残ってゆくか検討中です。 ■ 軸になる商品に力を入れてアイテムを減らしてその商品の売り方に集中して売上を上げることに力を入れたいと考えております。 ■ 商品の値上がりは仕入値、販売価格の両方が上がる事になり、又生活に関わる値上げは直接家計に関わってくるので、ウチのような店での購入は後回しになる。コロナ明けでイベントや集まりが復活すると少し良くなるのか？
サービス	<ul style="list-style-type: none"> ■ 仕入や光熱費、人件費の現金支払いが多く又クレジット利用等も多くなり、現金の確保がむずかしい月となりました。 ■ 物価高による消費が多く、外食が少なくなると思う。 ■ 仕入価格がどんどんと上がり売上げが減っている事が原因と思われる。 ■ お昼のランチが忙しいですが材料費が上がったため、利益が少ない同じお客様ばかりです。一般のお客様が来てほしいです。 ■ 社会のコロナへの対応が、どの様に変化するのかが予測できず、対応がおくれがちである。又、本年は選挙もある事から宴会等の利用は低調が予想される。 ■ 去年の同時期は3月末までの時短営業要請が出ていたので売上の改善がみられる。お客様のお客様の動きも活発になっているので今後も昨年より売上増加が見込める。しかし現状の各種仕入高値上げ、特に卵の値上がりは顕著で回復に一年以上かかる見通しなので値上げでの対応を取らざるを得ない。 ■ 材料費の上昇が、固定費の増加が問題。 ■ まだコロナです。 ■ 全体的に財布のヒモは固くなっていると思います。 ■ 来店サイクルが少し長くなっていると思います。 ■ 問題点はズバリ仕入単価、エネルギー関連の値上げである。メニュー単価を10%~15%値上げしても、食材単価や電気代などが150%~200%あがるものがあり、経営がおっつかない！！ ■ 主な仕入が鮮魚等の為、昨年と比較して2~3期の単価上昇で苦慮しています。光熱費も値上がり、ありとあらゆる物が値上がり。コロナ禍の後始末と物品の値上がりの状況をうまく調整して行きたい。ムリだと思いますが… ■ 品不足と価格上昇で、日々いくらかの不安を持ちつつ、営業中。商品の品質をそろえたいのですが安定せず、入荷せず。 ■ 物価のさらなる上昇により、2023年に入ってからさらに客数・客単価が減少しました。季節的にある程度は想定していましたが、物価上昇による消費の落ち込みが切実に感じられます。 ■ 景気がごくゆるやかに回復しつつある。 ■ コロナは少し落ちついてはきているが、コロナ中の生活がしみ付いており、まだまだ本当の流れになれていない。 ■ ここ最近、パーマやカラーの客数が増えてきて、客単価の増加がみられる。 ■ コロナによる色々な締め付け、規制が緩和され始めてきているのに少しずつ良くなってきていると思う。ただ、コロナ期の前の様には戻らない。 ■ 材料等仕入単価の上昇がいつおさまるのか、不安を感じる。 ■ スタッフ及び顧客の高齢化による諸々の影響が出ていると思う。元気なあいだは続けていきたいと思っているが・・・。 ■ 高齢者の免許返納による台数の減少とコロナの影響による収入の減少。 ■ 引き続き高齢化・人口減少は避けられない状況である。今後は、物価上昇、

業種	内 容
サービス	<p>諸経費の増加も見込まれ、それに追いついで、海外からの部品が入って来ず、車の納期等も遅れ、お客様の買物動向も慎重になることが予想される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ コロナが落ちつき、人の流れが出きました。燃料他材料価格が上昇していますが、それ以上に売上が回復してきているが、人手不足と金利の上昇が不安材料です。 ■ 商品の納品の長期化による売上がたたず、解消する見込みがたっていない。 ■ 新商品の開発、投入が必要になると思う。 ■ 体調不良により満足に仕事ができなかった。加えて施設の老朽化でメンテナンスが必要になり、店舗休業しデザイン仕事に集中した。補助金事業にとりくむ客が多く、入金があとになる客が多く資金ぐりがとどこおる。 ■ 業況はあまり変わらない。弊社は外部委託による業務があり、経費と増加してやや圧迫している。経費の増加分を報酬額に上乗せしにくい。景況感はあまり良くない。 ■ 令和4年12月に従業員が自己転倒で右膝骨折。手術と入院。本年2月に私が脳梗塞のため入院治療を受けた。2車2名で運用していたが1台1名となり、病院の送り迎えは従来2台が1台になり売り上げが減少。病気怪我をすると運用停止が現状である。 ■ 仕入れが大変です。 ■ コロナによる影響は引き続き感じている。コロナ前に有った仕事の一部は戻る気配が無いが戻ってきているものはある。戻らないものについては今後ももどらないと思う。物価高の影響がこれから特に難かしくなるだろう。 ■ 競争の激化は相変わらずですが、最近では電気料金の値上などコストアップがじわじわと重くなってきています。

京都府商工会連合会

600-8009 京都市下京区函谷鉾町78番地

京都経済センター 3F311号室

TEL : 075-205-5418

FAX : 075-343-0373

E-mail : office@kyoto-fsci.or.jp